

日本健康心理学会メールマガジン No. 157

2025 年 8 月 25 日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 152 「防犯の取り組みと犯罪不安」 日比野 桂 (高知大学)

1) 学会からのお知らせ (<https://kenkoshinri.jp/>)

■日本健康心理学会第38回大会 (9/20 [土]・21 [日]) のお知らせ (日本健康心理学会第38回大会準備委員会より)
開催まで1か月を切りました。準備委員会一同、皆さまとの学びと交流の2日間に向けて鋭意準備中です。ぜひご参加ください！

1. プログラム&タイムテーブルが公開されました。
<https://healthpsychology2025.com/12>
2. 大会企画ページが公開されました。
基調・特別講演、シンポジウム、ワークショップの概要はこちら↓
<https://healthpsychology2025.com/13>
3. 講演ハイライト
スティーブン・パーマー博士：基調講演
橋本昌人氏 (放送作家)：「汚舌」特別講演
フィンランド駐日大使館 (報道・文化担当参事官) による講演が急遽決定！
4. 参加登録 (通常受付) はこちら↓
<https://peatix.com/event/4406565/view>
★懇親会 (要別途申込：参加登録と同サイトで受付)
9/20 (土) 18:00～ 楽しい交流企画をご用意しています。
大会 HP：<https://healthpsychology2025.com>
皆さまのご参加を心よりお待ちしております！

■「認知行動療法の考え方に基づく心理支援」の診療報酬化に関する要望書 (第8版) のお知らせ (学会事務局より)
要望書「公認心理師が行う『認知行動療法に基づく心理支援』の診療報酬科目の新設について」が更新されました。
<https://psych.or.jp/wp-content/uploads/2025/02/20250204.pdf>

■「エマージングヘルスサイコロジストの会」の設立 (研究推進委員会より)
研究推進委員会の下部組織にエマージングヘルスサイコロジスト小委員会を置き、若手研究者の育成ならびに研究活動の活性化を図るために、2025年度より「エマージングヘルスサイコロジストの会」を設立しました。

■第38回大会ランチョンラウンドセミナー『若手研究者のキャリア形成を考える～はじめてエマージングヘルスサイコロジストです～』の企画 (エマージングヘルスサイコロジストの会より)

日時：9月20日 (土) 12:00-13:00

<https://healthpsychology2025.com/13>

- ・参加資格は若手研究者 (詳細は大会 HP を参照ください) の学会員
 - ・お弁当提供あり (無料：ただし、事前申込が必要です)
 - ・「エマージングヘルスサイコロジストの会」への入会案内 (当日説明します)
- みなさまのご参加をお待ちしております。

■ヨーロッパ健康心理学会 Practical Health Psychology blog (PHPB, 実践健康心理学ブログ) の8月記事のお知らせ (国際委員会より)

"MyLifeTool: A person-centred, holistic approach to the self-management of long-term conditions" の日本語記事「MyLifeTool：長期的な健康問題の自己管理に向けた、患者中心で全人的なアプローチ」が掲載されました。
<https://practicalhealthpsychology.com/ja/2025/08/mylifetool-a-person-centred-holistic-approach-to-the-self-management-of-long-term-conditions/>

■英論文募集について (英文翻訳助成金) (編集委員会より)

2025 年度に機関誌「健康心理学研究」(Vol.29 より, Journal of Health Psychology Research に改称) へ掲載される英論文に、英文翻訳助成金を支給します。

詳細は下記 URL よりご覧ください。

<https://kenkoshinri.jp/journal/journal1.html>

■ヘルスサイコロジスト 97 号の発行 (広報委員会より)

ヘルスサイコロジスト 97 号が学会 HP に掲載されています。下記 URL よりアクセスしていただき、併せてご高覧下さい。

https://kenkoshinri.jp/health/pdf/2507_97.pdf

2) 健康心理学コラム Vol. 152

「防犯の取り組みと犯罪不安」
日比野 桂 (高知大学)

昨年よりの複数の研究者および高知県警と連携して自転車盗難や特殊詐欺について防犯の観点から研究しています。警察庁 (2024) によると、日本の認知されている犯罪の中で最も多いのが自転車盗難で全体の23%ほどを占めています。盗難されている自転車の66%が未施錠で、施錠しているときよりも盗難の可能性が2倍高くなります。そこで、防犯の観点からどうしたら自転車の施錠率を高められるかを検討しています。昨年度は自転車の施錠・未施錠の理由とその関係性を調べたうえで、ナッジ理論を用いて介入実験をしました。今年度も場所を変えて介入実験を行う予定です。また、特殊詐欺についても啓発動画を作成し、その効果検証を実施したり、特殊詐欺被害者や警察に相談してきた方を対象にアンケートを行ったりして、特殊詐欺被害にあわないようにするための検討も今後進めていく予定です。
このような防犯の取り組みは、犯罪不安を減少させ QOL を高めていくものだと思います。中谷内・島田 (2010) が、現代の日本人は「地球規模の環境問題」「死亡者の多い死因」「犯罪」に対して強い不安を感じていることを示しています。犯罪不安を下げよりよい生活を送るためにも、現場での介入を含め、様々な研究をしていきたいと思っています。

引用文献

警察庁 (2025). 令和5年の刑法犯に関する資料 警察庁 Retrieved June 25, 2025 from

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/jousei.html>

中谷内 一也・島田 貴仁 (2010). 日本人のハザードへの不安とその低減 日本リスク研究学会誌, 20, 125-133.

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <jahp@pac.ne.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <jahp@pac.ne.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<https://kenkoshinri.jp/health/health1.html#mailmagist>